

### 第3回中空知広域水道企業団水道事業ビジョン策定検討会議 議事概要

開催日時 平成30年8月21日(火) 13:55~15:15

開催場所 滝川市まちづくりセンター 多目的室

出席委員 峯村委員長、高村副委員長、中口委員、河端委員、加藤委員、山崎委員、小林委員、山委員

出席助言者 保坂助言者、松原助言者

出席事務局職員 加藤企業局長、児玉工務課長、横山営業課長、吉尾工務課副主幹、桜井営業課副主幹、金子営業課副主幹、加地滝川営業所長、岩崎砂川営業所長、大津奈井江営業所長、山田歌志内営業所長、早坂工務課主査、松本営業課担当

配布資料 会議次第(別紙1)

各課題に対する目標設定と実現方策(別紙2)

#### 1 開会 委員長

#### 2 議題 進行：峯村委員長

##### (1) 各課題に対する目標設定と実現方策

事務局より説明

説明資料「各課題に対する目標設定と実現方策」(別紙2)

委員1：予備水源について説明があったが、水源は空知川からの1か所のほかに考えはあるのか。また、滞水池とはどのようなものなのか。

事務局1：当企業団では、空知川からポンプアップで浄水場内に水を引き込んでいる。その取水ポンプから一旦、浄水場の敷地内に水をためておく池が滞水池というものになる。施設などによりためておける水の量は違うが、高濁度や災害等が発生し、取水できない場合に予備的に水を滞水池にためておける。

事務局2：予備水源についてだが、現在、当企業団では空知川から水を取水している。現実的に他の大きな川は石狩川しかなく、空知川の上流に北海頭首工から引いているかんがい用水がある。そこで川が分岐しているので、例えば空知川からの取水に加え、かんがい用水から取水をすることによって、河川に汚染物質が流れた場合でも、流れてから通り過ぎるまでの時間差を利用して、その間は危険物質を取り込まないようにしたり、空知川の上流に取水ポイントを別に作って汚染物質が通り過ぎるまでの時間差を利用するという形での予備水源ということも考えられる。

委員2：説明の中で「バックアップ施設の検討」、「バックアップ機能の充実」とあるが、バックアップとはどのようなことを言っているのか。

事務局3：バックアップ施設については水源確保のための施策で、他の水道事業者と給水管をつなぎ、企業団の水がダメになった場合、他の事業者から給水してもらうという形でバックアップをするための施設という意

味合いになっている。

委員3：それは可能なのか。

事務局4：他の事業体との話もまだ全然していない状況。もともと企業団は用水供給事業を行っており、配水池まで水を送る事業をしていた。他の事業体でも用水供給事業体からいくつかの事業体に水を送っていたり、また、送り先の事業体でも独自の浄水場を持っていて、片方がだめになった場合でも、水をお互いにやりくりできるということもある。今後に向けてどのような形になるかは分からないが、検討という形では考えていくことができると思う。

事務局5：「バックアップ機能の充実」についてだが、災害が発生し、電気が止まる状況になった場合などに対応するため、浄水場では非常用発電機を設けている。水作りができないと水を送ることもできない。バックアップとして、非常用発電機を常時整備し、非常時に稼働させて水作りを行うことができる。また、マニュアルの整備ということも掲げており、その中で対策マニュアルはいろいろあるが、例えば、応急給水が必要になった場合、企業団では給水タンクを常備している。現地で給水所を開設する場合に、浄水場から水を給水タンクで現地に持っていき、各家庭に持ち帰れるように給水袋も配備している。それらの物を常時備え、非常時に対応できるようにすることをバックアップ機能としている。

事務局6：予備水源・滞水池、バックアップ施設等については、担当より説明があったが、基本的にこれらについては、実現するとなるとかなりの費用がかかる。この10年間の計画の中でこれらについて検討し、具体的に何かをするとすると莫大な費用がかかる。この費用をどうするかというと、補助金等があれば活用するが、ほとんどが水道料金にはね返ってしまうのが現実と理解している。この10年だけではなく、50年、100年先を見たときに、中空知広域水道企業団だけではなく、全ての水道事業者が、何か水道に問題があったときにバックアップしていくということを考えた中で、当企業団も検討していかなければならないと思っている。

委員4：法定耐用年数を大幅に超過している設備、昭和50年代以降の布設管路の大量更新期が到来するという説明があったが、このビジョンについては、今後10年間の計画となっている。先ほど説明はあったが、50年、100年を見通してということもあるが、今のこの問題について、計画期間の31年から40年までの間にどこまで、どのように行うかという検討はしているのか。

事務局7：平成31年度から40年度、また、その後の50年後、100年後まで一貫して1つの考え方で、施設・管路の更新については考えている。管路については、独自の更新基準を設けている。法定耐用年数は厚生労働省の設定例があり、一律40年となっている。管種によって100年持つものもあり、それも踏まえた更新基準にしている。また、施設・構築

物については、一律法定耐用年数の 1.5 倍とし、全ての資産について延命化した形で更新していく。その中で今回の計画があり、全てを先送りするのではなく、スペックダウンなどの規模を縮小していくなどの考え方も含まれている。更新については取捨選択をして更新を行うところ、行わないところを選別していくことも今後の 1 つのアイデアとしてこの 10 年間の計画に含まれている。

(2) 基本理念について

委員長：基本理念については、第 2 回検討会議の中で委員から案を持ち寄ってもらい、検討するとしていた。案をお持ちの委員はいるか。

委員 1：「中空知の未来を守り 育てる水道」を基本理念案として提案する。

委員 2：基本理念は 10 年前の基本理念も考慮した中で、検討してはどうか。  
前地域水道ビジョン基本理念「安定的に安全な水道水の供給を行い、継続的に水道事業の健全性を確保する」

委員 3：今回の水道事業ビジョンやアンケート調査によるキーワードである、安心して飲める、安定した供給、災害に強い等のキーワードを考慮し、策定してはどうか。

委員 4：キーワードを全て組み合わせて、「安定した水道水の供給と災害に強い水道を育てよう」はどうか。

委員 5：「地域住民に安全・安心な水道水の供給を行うため、安定的・継続的に中空知広域水道事業の健全性の確保を図る」を提案する。

委員 6：「いのちを守り まちを未来へつなぐ 安心と信頼の水道」

「安全で良質な水を 未来へつなぐ なかそらち」

「安心と信頼を 未来へつなぐ 中空知の水」

「安心と信頼で 地域とともに歩む 中空知の水道」

「つなごう未来へ 安全で強い 中空知の水道」の 5 つを提案する。

委員 7：キーワードなどを考慮した中で、全ての要素を含んでいる最初に出た意見を基本理念として掲げるのがいいと思う。

各委員、委員 7 の意見におおむね了承の意思表示あり。

委員 8：最初に出た基本理念の中に「広域」という文言をどこかに入れた方がいいと思う。

委員長より委員の方から提案のあった意見をまとめ、「中空知の未来を守り 育てる広域水道」を基本理念とする提案があり、異議なしとして決定された。

(3) その他

水道事業ビジョン冊子について現在作成中であり、かなりのページ数の校正となるため、次回検討会議の前に委員の方に事前に送付し、一度ご覧いただいてから第 4 回の検討会議に参画していただきたい旨事務局より説明。

質疑なし

### 3 その他

#### (1) 次回日程の検討

事務局から9月19日(水)14:00から滝川市まちづくりセンターで開催したい旨の提案があり、異議なしとして決定された。

#### (2) 事務連絡

特になし

#### (3) その他

特になし

### 4 閉会委員長